

宮田村誌 下巻

目次

題字 伊藤 浩

口 絵 カラー  
白黒

凡例

現代編

第一章 戸口……………三

第一節 戸籍制度の沿革……………三

戸籍近代化の開幕 壬申戸籍 戸番の設定

姓の公的使用 戸籍三総計 その後の戸籍法

の変遷 戸籍の関連制度の推移

第二節 世帯数と人口……………五

一世帯数と人口の推移……………五

合村申請時の戸口 世帯数と人口の増加率

二世帯数と人口増減の背景……………六

製糸業の盛衰と村の人口 工業の発展と人口増

一世帯当りの家族構成比の推移

三 人口動態の推移……………八

(一) 概説……………八

(二) 自然動態……………九

出生率と死亡率

(三) 社会動態……………九

転入、転出の状況 転入超過の推移 部落

別世帯、人口の推移 年齢階級別人口の推移

人口ピラミッド 産業別就業人口の推移

村の昼間人口

第三節 海外移民……………一四

第二章 政治……………一五

第一節 概観……………一五

第二節 町村制施行(明22)以前の行財政……………一五

一 維新の足音―官軍先鋒隊の通行……………一五

二 維新直後の当村と周囲の情勢……………一六

ご一新の幻想 旧慣の踏襲 徒党強訴の禁令

三 合村、宮田村の成立前後……………一七

(一) 県治組織の変遷……………一七

1 高遠県の支配

2 筑摩県の成立

県庁の松本開設と宮田宿 内藤氏支配の終り

3 長野県の成立

(一) 大区小区体制への移行……………二一〇

1 戸籍区の設定

2 明治五年の区制

3 大区小区体制下の村落

大区小区制の区域と組織 区長事務掌程と戸  
長らの職務 正副戸長の身分と待遇……………二二二

(二) 合村、宮田村の成立……………二二二

1 合村勧告の背景と経過

維新期の宮田と上伊那の村々 明治五年の合  
村計画 明治六年の合村取極め……………二二七

2 宮田村の成立

(三) 民会等の胎動……………二二七

町村会の前身、総代制度の台頭 筑摩県の下  
問会議……………二二九

四 地租改正と地価修正運動……………二二九

概観 土地制度の改革Ⅱ地券の交付  
地押丈量への移行 地価修正運動の展開……………二二九

五 三新法(明12↓明21)時代の村政……………二二七

(一) 三新法体制の発足……………二二七

地方制度の回帰Ⅱ三新法 上伊那郡の誕生と  
郡長の権限 県会議員の選出……………二二八

(二) 戸長と戸長役場……………二二八

戸長の民選と戸長役場 三新法下の戸長の性格……………二二九

(三) 村会の開設……………二二九

戸長役場の建設と大田切 駒ヶ原両坂の開削……………二二九

(四) 三新法の十七年改正……………二二〇

再検討された三新法 連合戸長役場の設置  
戸長官選の復活 町村費滞納の激増と強制徴  
収権の起り……………三二一

六 自由民権、国会開設運動のほっ興……………三二一

自由民権運動の周辺 野木七郎の建白……………三二二

七 町村制施行以前の村の財政……………三二二

(一) 明治初期の財政……………三二二

民費の時代 地価割依存の税制 戸数割・  
人口割の台頭 課役と物納に依存した明治初  
期 村入用の構成実態 民費の支出内容  
民費節減の小区会決議 里道、旧耕地道の修  
繕方法……………三二二

(二) 三新法時代の村の財政……………三二二

民費から協議費へ 三新法下の税制 予算  
制度の出現 松方デフレと財政の窮迫 三  
新法時代の決算の動向……………三二二

第三節 町村制施行、明治後半の行財政……………三二二

一 町村制体制の形成……………三二二

(一) 大合併を前提の新町村の創出……………三二二

(二) 村会と執行機関……………三二二

1 村会議員の選び方と地位……………三二二

「公民」の条件 等級選挙制の採用 等級  
選挙制の実態 村会の権限……………三二二

2 執行機関の地位……………三二二

村長、助役、収入役と村委員の選び方 村長  
の権限 難航した初代村長の選挙……………三二二

(三) 郡会.....四五

二 明治後半の村行政.....四五

(一) 行政、教育機関の整備を急ぐ.....四五

(二) 学校跡地の特売.....四六

(三) 区制の発足と消滅.....四六

(四) 伝染病隔離病舎の建設.....四七

(五) 対県抗争と職務管掌の来村.....四八

(六) 太田切川の治水.....四八

地元負担の実情 生命線、太田切川の護岸.....四八

(七) 部落有財産整理統一の見送り.....五〇

(八) 伊那電車軌道の建設促進.....五〇

(九) 四十四年の町村制改正.....五一

三 明治後半の村財政.....五一

(一) 税制.....五一

町村制初期の税体系 日清・日露戦時の税制.....五一

(二) 歳入歳出決算額の推移.....五二

戸数割の増大 地価割の制限外課税の実施.....五二

義務的経費の膨張 教育、衛生行政の推移と.....五二

その対応 寄付金に頼った財政補完 日露.....五二

戦時の超緊縮財政.....五二

(三) 村と部落の財政関係.....五五

納税組合の発足.....五六

(四) 基本財産の造成と蓄積.....五七

村の財産造成 小学校の基本財産蓄積.....五七

第四節 大正期の村政.....五八

一 概観.....五八

二 大正期の行政.....五八

(一) 三村道路の開設.....五八

宮田外二ヶ村組合の設立 三村道路と経済効.....五八

果 当初の改修構想 大久保釣り橋の架設.....五八

工事の遅延と道路法の施行 三村道路の開通.....五八

とその後.....五八

(二) 駒ヶ原耕地整理組合と第一次計画の展開.....六一

設立への動き 第一次計画と水利の再編.....六一

水利差止め事件.....六一

(三) 伊那電軌・宮田駅の開業.....六四

宮田駅の開業 開業記念、末広町道路の開設.....六四

太田切発電所の建設.....六四

(四) 太田切川、大正八年災害の復旧.....六六

(五) 部落有財産の整理統一.....六六

対外全権委員の設置 帰命山入会地の分割.....六六

石原沢、大トチガ洞、岡部沢、ホソ入りの分割.....六六

大平、千石平、尻ナン、寺沢、横ズヤ、清水峠.....六六

の分割 部落有財産整理統一の基準 林野.....六六

「割地」の出現.....六六

(六) 小学校鉄筋コンクリート校舎の建設.....六九

大久保発電所の建設.....七〇

(七) 自作農創設維持資金の貸付け.....七一

(八) 郡制とその廃止.....七二

(九) 西春近村南部の当村への分合案.....七三

二 大正期の財政.....七三

税制の推移 制限外課税の実施 寄付金で.....七三

賄った主な事業 救済施設積立金制度の創設.....七三

四百年会の積立金 小料地所在町村への下賜  
金 県補助金と奨励金の漸増 基本財産、

村有林の造成 官行造林の開始 教員給与費の

実態と全額国庫負担の請願 大正期の決算概況

第五節 昭和期 戦前、戦中の村政

一 概観……………七七

二 挙村、経済更生の推進へ……………七八

(一) 不況初期の村の対策……………七八

(二) 緊縮財政への出発……………七八

(三) 激減した村民所得……………七九

(四) 村税滞納の激増……………八〇

(五) 失業救済事業の展開……………八〇

救済事業の出発 養蚕応急資金の借入れ

失業救済農山漁村臨時対策低利資金の貸付

救済土木事業の推進 農村及び中小商工業関

係元利支払資金の利用

(六) 役場内部の緊縮体制……………八六

(七) 小学校南北校舎の増築……………八七

(八) 自作農の起債償還、一年据置き……………八七

(九) 宮田劇場の建設と県道舗装第一号……………八八

(一〇) 経済更生計画の樹立と推進……………八九

経済更生運動の歩み 村の経済更生計画

精神更生運動

(一) 駒ヶ原耕地整理事業の第二次計画とその後……………九〇

西春近村南部との水利和解 第二次計画の推進

耕地整理事業の成果 土地改良区への移行

(一) 買米河原及び洞口の割地……………九一

(二) 公益質屋の開設……………九一

三 戦時下の村政……………九三

(一) 国民精神総動員と大政翼賛会……………九三

国民精神総動員運動の展開 大政翼賛会の結

成と村政……………九四

(二) 林道新田黒川平線の改修と駅西貯木場の設置……………九四

(三) 満州移民……………九五

1 開拓団移民

その発端 経済更生計画の一環Ⅱ分村移民

上伊那三郷の建設へ 空しかった理想郷の建設

悲壯、黒台信濃村の最期 老石房第八次川路村

四 満蒙開拓青少年義勇軍……………一〇〇

戦時食糧の増産と供出……………一〇〇

米穀増産施設耕地事業の推進 食糧の増産と

供出……………一〇〇

(五) 勤勞奉仕と勤勞動員……………一〇〇

1 勤勞奉仕

紀元二千六百年記念植樹 松脂及び松根油の

採集……………一〇三

(六) 勤勞動員

2 勤勞動員

(一) 戦時下の一般的な銃後活動……………一〇三

飛行機献納運動 金属回収運動……………一〇四

(二) 防空体制の実施……………一〇四

(三) 疎開者の受入れ……………一〇四

(四) 疎開の発端 住宅改造の推進と実情 疎開……………一〇四

者受入れ協力運動の推進 戦災者の疎開  
駒繫校と登戸研究所の疎開

四 昭和期・戦前戦中の財政……………一〇六

(一) 税制改正……………一〇六

1 大正十五年の税制改正

貸貸価格の登場

2 地方財政補給金制度の実現

3 昭和十五年の税制改正

市町村民税の新設 地方分与税の出現

(二) 基本財産の蓄積停止……………一〇九

(三) 制限外課税の実施……………一〇九

(四) 寄付金の実態……………一〇九

(五) 戦時型行財政への移行……………一一〇

(六) 昭和期・戦前戦中の決算概況……………一一〇

第六節 昭和期・戦後の行財政……………一一一

一 戦後の行政……………一一一

(一) 序曲「混沌と飢えの中で」……………一一一

(二) 引揚者の援護……………一一一

応急生活の援護 開拓民の援護 切々、同胞必救の叫び

(三) 地方自治法の成立まで……………一一三

「住民」の自治体誕生 地方自治法の成立

(四) 食糧の供出と配給……………一一四

飢餓迫る 一割増産運動の展開 農業調整

委員の進出 長かった食糧自給への道程

(五) 農地改革の推進……………一一五

第一次農地改革 第二次農地改革 農地改革の成果 農業委員会の登場

(六) 宮田町の誕生と町村合併……………一一九

適正規模論の台頭 つかの間の町制施行

理想郷選択への陣痛 激転、市制への秒読み

自立への定着

(七) 養ます場の誘致……………一二二

観光兼用のます池構想 用地設定に難航

高まる水道建設の世論

(八) 新太田切発電所建設への対応……………一二三

黒川からの引水 和解、運転開始へ

(九) 全村水道の建設と運営……………一二五

1 初期の水道建設

窮迫した水事情 待望の起債認可 難渋、転石地帯の掘削 第二水源の着工

2 第二次拡張事業

3 第三次拡張事業

4 第四次拡張事業

5 村営水道の運営と広域水道計画

(一〇) 中央自動車道建設への対応……………一三三

ルート発表までの経緯 対策協議会の設置へ

設計協議の展開 用地問題の取組み

文化財の調査及び社寺の移転 中央道の着工と開通

(一一) 農業構造改善と農業振興の推進……………一三三

1 四つんばい農業からの脱出

2 第一次農業振興計画の推進……………一三三

3	第一次農業構造改善事業の実施	一四三
4	県営は場整備事業の展開	一四三
5	第二次農業構造改善事業の推進	一四三
6	農業振興地域の設定と農業振興	一四三
7	米の生産調整と所得向上への対応 土地利用計画の重視	一四三
8	新農業構造改善事業の出発	一四三
(一)	国道バイパスの建設	一四三
(二)	住宅政策の推進	一四三
(三)	住宅問題前史	一四三
	つつじが丘団地の造成	一四三
	大	一四三
	原団地の建設	一四三
(四)	小田切川の抜本改修	一四六
(五)	公民館分館と福祉センターの建設	一四七
(六)	公民館の推移	一四七
	福祉センターの建設	一四七
(七)	工場誘致と商工業の近代化	一四八
(八)	総合開発計画の策定と推進	一四九
	その発端と情勢	一四九
	昭和五十四年度への構想と 現実	一四九
	昭和六十四年度へのビジョン	一四九
(九)	都市計画の推進	一五〇
1	住みよい街づくりへの出発	一五〇
2	都市計画事業の展開	一五〇
	街路事業の推進	一五〇
	公共下水道計画	一五〇
	西原区	一五〇
	画整理事業の取組み	一五〇
(一〇)	小中学校施設近代化の推進	一五一
	中学校施設の移築	一五一
	小学校体育館の新築	一五一
	小学校給食室の新築	一五一
	小学校の増改築	一五一
(一一)	中御所発電所の建設	一五二
	一五二	一五二
	太田切川の有効利用	一五二
	対策委員会の一本化と 活動	一五二
	着工、そして運転開始へ	一五二
(一)	役場庁舎の建設	一五四
(二)	道路改良と舗装の推移	一五四
(三)	道路改良事業の変遷	一五四
	コンクリート橋への改 築	一五四
	舗装の促進	一五四
(四)	開発公社と土地開発公社の歩み	一五八
(一)	戦後の村財政	一五八
(二)	財政制度の沿革	一五八
	シャープ勧告と税制の改革	一五八
	地方交付税の出 現	一五八
	住民税、標準税率の採用へ	一五八
	地方譲与 税	一五八
	交通安全対策特別交付金	一五八
	自動車取得 税交付金	一五八
(一)	村財政の経過	一六一
1	歳入決算額の状況	一六一
	村税収入の歩み	一六一
	財政危機からの脱出	一六一
	村 債の推移	一六一
	縁故財源の活用	一六一
	歳入決算額の 概況	一六一
2	歳出構成比ににじむ時代相	一六一
	歳出決算額ににじむ時代相	一六一
第七節	行政組合の設置と運営	一六五
一	伊南行政組合	一六五
二	上伊那地域広域行政事務組合	一六六
第三章	社 会	一六七
第一節	厚生福祉	一六七
一	戦前の福祉	一六七

(一) 社会事業の台頭……………	一六七	(七) 村内の福祉団体……………	一七七
公的扶助の推移……………	備荒貯穀 方面委員と仏	一 概説……………	一七七
教社会事業協会……………	昭和恐慌と社会福祉 草	二 戦前の保健衛生……………	一七七
分けの福祉教化……………	戦時中の福祉	(一) 伝染病の推移……………	一七七
(二) 児童福祉の芽生え……………	一六八	種痘 コレラ 赤痢・チフス 猩紅	
季節保育所の発足……………	一六八	熱・ジフテリア……………	一七八
二 戦後の福祉……………	一六八	(二) 法定伝染病以外の流行疾病……………	一七八
(一) 民生安定施策……………	一六八	結核 感冒 トラホーム……………	一七九
生活保護 生業資金のあつ旋 母子福祉		(三) 医療体制の推移……………	一七九
乳幼児の福祉 心身障害者の福祉 老人福祉		西洋医の養成 戦前の在村医及び医療圏	
社 総合的福祉医療の推進 厚生授産		在村の産婦・薬局等……………	一八〇
災害見舞及び援護資金の貸付制度 老人ホームの推移		(四) 伝染病隔離病舎……………	一八〇
(二) 児童福祉……………	一七〇	上伊那南部伝染病院への統合……………	一八〇
常設保育所の開設 当初の常設保育所 東		(五) 火葬場……………	一八〇
保育所の開設 保育の通年化と第三保育所の開設 保育所財政と保育料 第一、第二保育所増改築の経過		(六) 衛生行政と組織……………	一八〇
(三) 国民年金……………	一七四	衛生組合の設置 清潔法の施行 上伊那南部衛生連合会の設置	
(四) 共同募金……………	一七四	(七) 戦時中の乳幼児検診……………	一八〇
(五) 日赤募金……………	一七六	(八) 戦前の環境衛生……………	一八〇
(六) 福祉事業の展開……………	一七六	戦前の環境衛生……………	一八〇
1 民生(児童)委員……………	一七六	環境衛生の初期……………	一八〇
2 社会福祉協議会……………	一七六	環境衛生の初期……………	一八〇
3 民間の福祉推進事業……………	一七六	環境衛生の初期……………	一八〇
婦人会慈善バザー……………	一七六	環境衛生の初期……………	一八〇
商工会歳末助け合いバザー……………	一七六	環境衛生の初期……………	一八〇
三 戦後の保健衛生……………	一八一	(一) 環境衛生事業……………	一八一
一 戦後の保健衛生……………	一八一		
二 戦後の保健衛生……………	一八一		
三 戦後の保健衛生……………	一八一		

1 村の環境衛生事業	
水道	戦後の清潔法施行
下水道	墓
地造成	公害問題の台頭とその対応
2 伊南行政組合の環境衛生事業	
ごみ処理	衛生センター
不燃物処理	
(一) 国民健康保険と保健行政	一八三
1 国民健康保険(国保)	
国保の歩み	制度の変遷
任意給付	被
保険者数の推移	診療所から保健相談室へ
2 戦後の保健行政	
予防接種及び駆虫	成人病とその対策
保	健相談室の活動
(二) 自治体病院と在村民間の保健機関	一八八
1 昭和伊南総合病院	
経営と財政の推移	病床数と診療の推移
移転新築計画	
2 伝染病院の推移	
上伊那南部伝染病院の変遷	上伊那広域の隔
離病舎	
3 戦後の在村医、産婦、薬局等	
第三節 治安	一九〇
一 消防	一九〇
(一) 明治における消防組織の成立	一九〇
筑摩県の消防組織	
(二) 宮田村の消防の沿革	一九一
1 明治時代	
消防組織の充実	消防器具の整備
三十一年	
代の宮田消防組の概要	四十年代の概要
2 大正期の宮田消防組の歩み	
3 昭和期の消防	終戦までの沿革
4 戦後の消防	
自治体消防の発足	宮田村消防団
四十年	
代の概要	日本消防協会長の表彰をうける
5 広域消防の発足	
伊南消防本部宮田分署	役場消防隊
(三) 火災その他の出動記録	二〇八
1 明治・大正時代	
2 昭和期の出動記録	
(四) 現代の消防	二一一
二 交通安全	
(一) 交通事故の推移	二二六
(二) 交通安全対策の推進	二二七
三 警察	二二七
(一) 戦前の警察と変遷	二二七
捕亡の設置	第百三十七区捕丁役
警察制	
度の発足と管轄区域	宮田駐在所の歩み
(二) 戦後の警察制度	二二八
国家地方警察への所属	県警の設置と駐在所
(一) 徴兵制の沿革	二二九
(二) 兵事	二二九
(一) 徴兵制の沿革	二二九
(二) 徴兵令と免役制	徴
(一) 徴兵令と免役制	徴



兵忌避の実態 国民皆兵と兵役法の公布……………二二二

二 銃後諸団体の活動と変遷……………二二二

軍人援護運動の起り 軍資金品の応募 尚  
 武会の設置 在郷軍人会 青年会と婦人会  
 の活動 銃後奉公会への統一 弾丸よけの  
 風習

三 出戦務の概況……………二二三

西南の役 日清戦争 日露戦争 第一次  
 世界大戦とシベリヤ出兵 満州事変 上海  
 事変 日中戦争 太平洋戦争

四 忠魂碑の建設……………二二五

五 招魂碑と崇敬者団体……………二二六

第五節 水害と治山治水……………二二六

一 概観……………二二六

二 戦前の治山治水……………二二七

三 戦後の治山治水……………二二八

(一) 期成同盟会の結成……………二二八

(二) 平坦部の治水……………二二八

天竜川 太田切川 小田切川 大沢川

押手沢、城ノ沢、宮ノ沢、長坂川 堂沢川

(三) 治山事業の推進……………二二〇

黒川、中御所、北御所沢の治山治水 寺沢の

治山治水 桐ノ木沢、水ナシ沢、日影沢、押  
 手沢、城ノ沢、長坂沢の砂防

第四章 産業経済……………二三四

第一節 総説……………二三四

明治初期の民業と経済 三次産業への発展過  
 程……………二二二

第二節 農業……………二二六

一 概観……………二二六

農家数と耕地の推移 当村の地味 開墾と  
 土地改良 農業粗生産額の推移

二 稲作……………二二九

(一) 機械化以前の生産技術……………二二九

品種の変遷 苗代 畦ぬり 耕起  
 肥料 田植 中耕 除草 病害虫の  
 防除 稲刈りと稲こぎ 粃すり技術

(二) 機械化一貫体系の確立……………二四七

(三) 作付面積と収量の推移……………二四七

三 麦 雑穀……………二四九

四 園芸……………二五〇

(一) そ菜……………二五〇

戦前のそ菜 戦後のそ菜……………二五〇

(二) 果樹……………二五二

改良果実の草創期 果樹園の発達 戦前の果  
 樹園 戦後の果樹園 生産組織と選果場の  
 変遷 倭化りんご団地の造成へ

(三) 特用作物……………二五五

1 藍葉 菜種・こんにゃく

2 きのご類 椎たけ なめこ しめじ

3 花き

第三節 畜産……………二五六

一 馬……………二五六

二 うさぎ めん羊・山羊(中家畜)……………二五七

三 牛……………二五七

乳牛(酪農) 役牛・肉用牛……………二五九

四 養豚……………二五九

五 養鶏……………二五九

第四節 養蚕業……………二六〇

一 明治期の養蚕……………二六〇

商業的農業への出発 蚕種の貯蔵と夏秋蚕の

発展 桑の品種と桑園の拡大 飼育法

養蚕家の研修と住まい

二 大正期から戦時中の養蚕……………二六一

養蚕業合理化の台頭 養蚕農家の組織化

飼育法の改善 蚕種の統一 桑園の改植と

整理

三 戦後の養蚕……………二六四

蚕糸業の復興 省力養蚕の発展

第五節 林業……………二六六

一 宮田村の山林概要……………二六六

二 林野変遷の概要……………二六六

1 官民有区分政策

2 林野紛争

(1) 婦命山論争

(2) 藤沢山境界紛争

3 本村と黒川官林との関係

黒川御料地一部払下申請 宮田担当区及び土

場・貯木場 微生物培養所 黒川伐採事業

所・宮田製品事業所

4 林野整理統合

公有地の売却等 林野整理 大正期の整理

統合

5 保安林

6 林野の開墾

三 林業振興と植栽造林……………二八〇

(一) 植栽造林と樹苗……………二八〇

1 植栽造林

宮田村の植栽造林 林野行政

2 樹苗について

村営宮田苗畑 県営宮田苗圃

3 官行造林

宮田村の官行造林

4 伐採 林産物

(1) 伐採について

明治大正期 村有林の払下競売 戦中・

戦後の供出

(2) 林産物

① 薪炭・材木について

戦前までの概況

② その他の林産物

椎茸

5 林道

林道開設の概要

四 森林組合……………二九五

宮田森林組合の発足 森林組合の活動 林

業近代化への歩み

第六節 農業諸団体と活動……………三〇〇

農談会 宮田村農会の沿革 産業組合の歩

み 農業会への統合 宮田農協の発足と伊

南農協大合併 農業共済事業の推進 戦後

の任意農業諸団体

第七節 商工業……………三〇四

一 戦前の商工業……………三〇四

(一) 明治前期の商業と交易……………三〇四

交易の進展と商業 諸職業の発展

(二) 明治後期の商工業……………三〇五

銀行業の進出 鉄道・通信の発達

(三) 大正期の商工業……………三〇六

工業会社の勃興 消費人口の増大と商業活動

(四) 昭和期・戦前の商工業……………三〇八

昭和恐慌期の商工業 商店の転廃業と工場の

疎開

二 戦後の商工業……………三〇九

(一) 商工業の復活……………三〇九

(二) 金融制度資金の活用……………三〇九

県の融資政策 村の金融制度

(三) 商工会の活動……………三一一

(四) 相つた工場の拡張整備……………三一二

(五) 流通革命と商業の近代化……………三二三

(六) 商工業の推移のまとめ……………三二三

三 製糸業……………三一五

(一) 明治期の製糸業……………三一五

1 製糸業の台頭

2 生糸改会社の設立

3 器械製糸の発展

宮田器械所の開設 郡下初の器械製糸所実現

小野組の倒産と器械所の更生 流域製糸場の

展開 大型企業化への歩み

(二) 大正期の製糸業……………三一九

1 製糸業空前の繁栄

2 組合製糸の発達

(三) 昭和期戦前の製糸業……………三二一

1 営業製糸の衰退

2 製糸業の戦時統制

3 組合製糸の動向

(四) 戦後の製糸業……………三二二

四 村内の労働団体……………三二三

第八節 水産業……………三二三

河川漁業 養殖漁業

第九節 金融……………三三四

一 戦前の金融……………三三四

(一) 金融制度の推移……………三三四

1 貨幣制度の変革

2 銀行設立以前の金融機関

為替会社の設立    開産社の営業	三三二
3 銀行の設立と推移	三三二
銀行の発達    村内の銀行	三三二
4 郵便貯金	三三二
5 産業組合による金融	三三二
6 庶民の金融機関	三三二
頼母子講    金貸・質屋	三三二
(一) 戦前の金融状況	三三六
(二) 戦後の金融	三三六
(一) 金融制度の整備	三三六
(二) 戦後の村内の金融機関	三三六
(三) 戦後の金融状況の概観	三三七
第五章 集落	三三八
一 集落分布の変遷	三三八
(一) 明治以前の集落	三三八
(二) 明治以後の集落	三三八
二 集落発達の戸数的推移	三三九
三 住居の変遷	三三九
戦前の住居    戦後の住居	三三九
四 参考「おおたぎり」の字名と川名表示について	三三〇
第六章 交通・運輸・通信	三三一
第一節 交通・運輸	三三一
一 運輸機関の変遷	三三一
1 宿駅制度の変革	三三一
2 中馬制の変革	三三一
二 伊那街道の整備と諸車	三三一
1 伊那街道	三三三
2 太田切橋	三三三
3 諸車	三三三
三 鉄道開通	三三三
1 中央線	三三三
2 伊那電車軌道	三三三
3 宮田駅	三三三
四 運送店の変遷	三三四
五 自動諸車	三三五
1 トラック	三三五
2 乗用車	三三五
3 乗合自動車	三三五
六 宮田・大鹿線(現在宮田停車場栗林線)	三三六
1 道路改修	三三六
2 渡船と大久保橋	三三六
七 その他	三三七
1 ロープウェイ	三三七
2 北の城橋	三三七
3 幹線道跡補記	三三七
第二節 通信 報道	三三七
一 宮田郵便局の変遷	三三七
二 電信 電話事業	三三八
1 電信	三三八
2 電話	三三八
三 放送	三三八
1 ラジオ	三三八

2 テレビジョン  
3 有線放送

四 報道……………三四〇

1 新聞

2 広報

第七章 教育・文化・体育……………三四一

第一節 小学校教育……………三四一

一 学制以前の宮田村の教育……………三四一

(一) 寺子屋から郷学校へ……………三四一

1 宮田村の寺子屋

2 筑摩県の学校設立と郷学校

3 宮田村の郷学校「広道学校」

4 広道小学校の概要

二 学制による小学校教育……………三四五

(一) 学制のあらまし……………三四五

(二) 筑摩県の教育政策……………三四七

1 学校設立と学校資金

2 教育体制の整備

(1) 教則・教科書等

(2) 就学率

(3) 進級と試験

(4) 学校世話役と学区取締り

三 宮田三校時代の教育……………三五〇

(一) 広道学校から宮田学校へ……………三五〇

1 宮田学校

(二) 真正学校—中越学校—中牧学校……………三五一

(三) 宮田西学校……………三五三

四 合県後の教育……………三五六

1 村落小学教則

2 教員の待遇

3 校費出途の方法

五 学制の廃止と教育令……………三五七

(一) 教育令……………三五七

(二) 教育令の改正 再改正……………三五八

六 三校統合後の教育……………三五八

(一) 宮田三校の統合……………三五八

(二) 統合後の宮田学校……………三六〇

(三) 宮田尋常小学校……………三六一

1 運動会はじまる

2 温習科設置

3 教育勅語

四 新校舎建築……………三六二

1 位置・設計等

2 建築費・建築用材

(五) 宮田尋常高等小学校……………三六三

1 宮田尋常高等小学校

2 実業教育の振興と補習教育

(1) 補習教育

(2) 宮田実業補習学校

3 義務教育制度

4 校舎増築

5 三十、四十年代の主な事項

(1) 日露戦争と教育	
(2) 奉安殿 学校林設置	
(3) 連合運動会	
(4) 学校・家庭通信簿	
七 大正から昭和へ……………	三六八
(一) 校舎全焼と鉄筋コンクリート新校舎……………	三六八
1 校舎全焼	
2 応急対策	
3 分散授業中の様子	
4 鉄筋コンクリートの新校舎建築	
(1) 建築費の調達	
(2) 竣工の喜びと篤志寄付	
(3) 校章の制定	
(4) 青年訓練所設置	
5 大正デモクラシーと教育	
6 池上慎三先生	
八 昭和期の宮田小学校教育……………	三七四
(一) 昭和から終戦までの教育……………	三七四
1 不況下の教育	
(1) 児童の様子と対策	
① 補食給食の実施	
② 購買部と学校貯金	
2 校舎増築	
3 職員研究	
4 行事等	
(1) 作業活動と植樹	
(2) 体育的行事	
① 水泳	
② 一ノ瀬訓導殉職	
③ 唱歌会	
5 伝染病禍	
6 戦時下の教育	
(1) 皇国主義・軍国主義の教育	
① 宮田青年学校	
② 満蒙開拓義勇軍	
③ 宮田国民学校	
(2) 疎開児童の受入れ	
九 戦後の教育……………	三八三
(一) 戦後教育改革の概要……………	三八三
(二) 戦後処理と学校教育……………	三八四
1 環境整備	
2 職員会議題	
3 墨塗り教科書と短縮授業	
(三) 新日本建設の教育方針・GHQの教育管理政策……………	三八五
(四) 宮田小学校……………	三八五
1 発足当時の様子	
2 新しい憲法	
3 週五日制	
4 深刻な教員不足	
(五) 新しい教育計画……………	三八六
1 学習指導要領	
2 カリキュラムと単元学習	
3 新しい教科書制度	

4	生徒指導 ガイダンス	
5	保健・給食	
(1)	学校保健	
(2)	学校給食	
(六)	校歌制定	三八八
(七)	児童会 クラブ活動	三八九
1	児童会	
2	部落児童会	
3	クラブ活動	
(八)	独立後の教育の歩み	三九〇
1	施設 設備	
2	教育研究と実践	
3	安全教育と公害教育	
4	特殊学級開設	
5	P T A について	
(1)	宮田村 P T A 発足	
(2)	P T A の活動	
(3)	P T A 母親文庫	
(4)	P T A の小 中分離独立	
6	同窓会	
7	当時の活動	
(九)	現代の教育	四〇一
1	学校目標と行事	
2	今後の課題	
一〇	就学前教育	四〇四
(一)	幼稚園と保育所	四〇四
(二)	保育所と就学前教育	四〇四
(三)	幼稚園と保育園の保育内容	四〇五
(四)	幼稚園と保育園の調整	四〇五
(五)	宮田村の保育所	四〇五
1	設立の沿革	
2	入学措置について	
3	保育内容 行事等について	
4	保育上特に留意する点・今後の課題	
第二節	中学校教育	四〇八
一	旧制中等学校の概要	四〇八
(一)	上伊那学生団	四一〇
二	新制中学校	四一一
(一)	新制中学の概要	四一一
1	新制中学の目的	
2	学習指導要領と新教科 教科書	
3	教員再教育講習と免許	
三	宮田中学校	四一四
(一)	小学校間借時代	四一四
1	発足当時の宮田中学校	
(1)	中学校設立の準備	
(2)	組織・編成	
(3)	間借り当時の様子	
(4)	占領下の教育	
2	二十年代初期の歩み	
(1)	学校経営の基本方針	
(2)	食糧、物資不足の中での歩み	
(3)	学習活動・生徒活動	

(4)	ホームルーム活動	四二〇
(5)	スポーツと学芸	四二〇
(6)	行事	四二〇
(7)	卒業生の進路	四二〇
(8)	二十三年度の概要	四二〇
①	週五日制	四二〇
②	二十三年度の歩み	四二〇
(二)	独立中学校の建設	四二〇
1	新校舎建設	四二〇
(1)	敷地の確保	四二〇
(2)	新校舎の構想と着工	四二〇
(3)	中学校建築費	四二〇
(4)	統制経済下の学校建築	四二〇
(5)	上棟式	四二〇
(6)	北校舎移築	四二〇
2	新校舎への移転・落成式	四二〇
(1)	新校舎への移転	四二〇
(2)	落成祝賀行事	四二〇
(三)	独立後の宮田中学校	四二四
1	二十四年度の概況	四二四
2	体操場の新築	四二四
3	二十年代後半の歩み	四二四
(1)	教育をとりまく諸情勢	四二四
①	国内情勢	四二四
②	教育情勢	四二四
(2)	宮田中学校の歩み	四二四
①	教科指導	四三三
②	進路指導	四三三
③	生徒活動	四三三
④	行事、その他の様子	四三三
(四)	三十年代の宮田中学校	四三三
1	教育をとりまく情勢	四三三
2	宮田中学の歩み	四三三
(1)	施設・設備の充実と教育活動	四三三
①	特別教室棟建築	四三三
②	テレビ視聴研究	四三三
③	産業教育研究指定校	四三三
④	プール建設	四三三
⑤	給食施設改善	四三三
(2)	新教育課程による教育活動	四三三
①	学校教育目標の見直し	四三三
②	全国一斉学力テスト	四三三
③	進路指導	四三三
④	生活指導	四三三
⑤	諸行事と生徒の活躍	四三三
(五)	四十年代の宮田中学校	四四三
1	四十年代の教育情勢	四四三
2	高校入試制度改善問題	四四三
3	四十年代の宮田中学校	四四三
①	新校舎へ移転までの概況	四四三
(1)	特殊学級開設	四四三



(六) 新校舎建設……………四四八

1 新校舎建設への始動……………四四八

2 用地確保……………四五三

3 建築費・建築工事……………四五三

4 入校式・竣工式……………四五三

5 竹中校長を悼む……………四五三

6 旧校舎への愛惜……………四五三

(七) 現代の宮田中学校……………四五四

1 五十年代の歩み……………四五四

2 三十五周年記念事業……………四五四

3 体育行事と学芸的行事……………四五四

(八) PTAと同窓会……………四六三

1 宮田中学校PTA……………四六三

(1) 独立前のPTA……………四六三

(2) 分離独立後のPTA……………四六三

2 宮田中学校同窓会……………四六三

今後に期待するもの……………四六三

第三節 社会教育……………四六六

一 戦前の社会教育……………四六六

(一) 宮田村の社会教育……………四六七

1 岸本 与の社会教育活動……………四六七

2 宮田村仏教社会事業協会……………四六七

3 生活改善運動……………四六七

二 戦後の社会教育活動……………四七〇

(一) 宮田村公民館設置経過……………四七〇

1 公民館の建築……………四七〇

2 中央公民館(福祉センター)建設……………四七三

3 公民館職員について……………四七三

(二) 二十年代の公民館活動……………四七三

1 宮田村図書館……………四七三

2 学級開設……………四七三

(1) 青年学級……………四七三

(2) 婦人学級……………四七三

(3) 母親学級から家庭教育学級へ……………四七三

(4) 寿学級(老人学級)……………四七三

(5) グループ活動……………四七三

(三) 三十年代以後の社会教育……………四八四

1 社会教育と公民館活動……………四八四

(1) 宮田村の公民館(本館)の活動……………四八四

(2) 新生活運動―生活改善運動……………四八四

2 三十年代後半から現在までの概要……………四八四

三十年代……………四八四

四十年代……………四八四

五十年代から現代の社会教育活動……………四八四

同和教育……………四八四

3 分館活動……………四八四

(1) 分館の設置……………四八四

(2) 分館活動の状況……………四八四

(四) 青少年、婦人団体と社会教育……………五〇五

1 少年団……………五〇五

2 青年会……………五〇五

(1) 戦前の青年会……………五〇五

① 宮田青年会の組織と活動	五三七	三 陸上競技	五三七
② 戦時下の青年会活動	五三八	四 柔道・剣道 居合道	五三八
(2) 戦後の青年会	五三八	五 弓道	五三八
① 生産増強活動	五三八	六 スキー	五三八
② 復員、海外引揚者の援護	五三八	七 相撲	五三八
③ 研修と文化活動	五三九	八 ゲートボール	五三九
④ 三十年以後の青年会	五三九	九 バドミントン	五三九
3 女子青年会	五四〇	一〇 その他	五四〇
4 婦人会	五四〇	一一 ラジオ体操	五四〇
(1) 戦前の婦人会	五四〇	一二 体力章検定	五四〇
(2) 戦後の婦人会活動	五四一	一三 体育協会と村民運動会	五四一
(イ) 青少年健全育成	五四二	一四 体育施設	五四二
(ロ) 健全育成活動の実際	五四二	第八章 宗教	五四三
第四節 文化	五四三	第一節 宗教政策の推移	五四三
一 村内の文芸	五四三	神仏分離と実情 神社合併の推進 宗教の	五四三
1 義太夫	五四三	戦時統制 神道の解体と宗教の法人化	五四三
2 俳句	五四四	第二節 神社信仰	五四四
3 神社祭典奉納行事	五四四	一 概観	五四四
4 村内所蔵美術品	五四四	二 神社信仰の推移	五四四
5 彫刻	五四四	姫宮(熱田)信仰 津島信仰 諏訪信仰	五四四
二 現在の文化活動―文芸 芸能	五四五	八幡信仰 熊野信仰	五四四
1 各耕地内のグループ	五四五	第三節 教派神道	五四五
2 全村的グループ	五四六	天理教 丸山教 ひとのみち教、PL教	五四五
第五節 体育	五四六	金光教 月日教	五四六
一 野球	五四六	第四節 キリスト教	五四六
二 バスケットボール・バレーボール	五四七	第五節 山岳信仰	五四六

一 駒ヶ岳(西駒ヶ岳)……………	五四六
信仰の山、駒ヶ岳  神風講社駒ヶ岳会  南	
割の駒ヶ岳神社  神道大成教	
二 不動滝……………	五四七
三 鉾立権現と三十三体観音……………	五四八
四 穂原、岐平、ブナの森その他……………	五四八
五 御岳講……………	五四八
第六節 民間信仰……………	五四八
一 民俗的な信仰……………	五四八
道祖神  庚申講  甲子講  二十三夜	
二 参詣講と巡拝信仰……………	五四九
三 地域又は職域共同の齋祀……………	五四九
四 祝殿及び屋敷神仏……………	五五〇
第七節 仏教……………	五五〇
一 寺院……………	五五〇
1 村内の寺院と現況	
2 過去の寺院と事跡	
二 新興宗教……………	五五二
霊友会  立正佼成会  創価学会	
第九章 観光と文化財……………	五五三
第一節 観光……………	五五三
一 概観……………	五五三
二 駒ヶ岳……………	五五三
景観  登山コースの変遷  戦前の登山	
戦後の登山	
三 黒川溪谷……………	五五五
四 北御所、中御所溪谷……………	五五五
五 追越牧道……………	五五五
六 宮田高原……………	五五六
七 鉾立……………	五五六
八 宮田観光ホテル……………	五五六
九 伊那峡……………	五五六
第二節 文化財……………	五五七
一 文化財保護の沿革……………	五五七
二 村の指定文化財……………	五五七
三 指定文化財以外の文化財……………	五五九
(一) 有形文化財……………	五五九
1 石造文化財	
2 木像彫刻	
3 大田切人形	
4 城塞跡	
5 太田切川橋場跡	
6 美術Ⅱ絵画  彫刻等	
(二) 無形文化財……………	五六二

## 民俗編

第一章 村の生活	五六五	第四節 年寄りの座	五八〇
第一節 村の生活	五六五	年寄り	気弱
一村	五六五	食べ物	こつかい
一村の運営	五六五	孫の可愛さ	老残の思い
三組合	五六七	子はカスガイ	成木は元
第二節 村の倫理	五六八	釣合わぬは不縁のもと	嫁住み三年
一村の申合せ	五六八	外出	親腹七日
二 近隣の協力	五七〇	嫁のこつかい	嫁の荷
1 ヌイ(結)			
2 用水			
3 風呂			
4 陰木・障害木			
5 雪掻き			
6 火の用心			
第二章 家の生活	五七二	第三章 衣生活	五八四
第一節 主人の座	五七二	第一節 衣料	五八四
横座	きんちやくを握る	一 あさ(大麻)	五八四
亭主関白		二 もめん(木綿・綿)	五八四
主婦の座	五七三	三 きぬ(絹)	五八四
腰元	しゃもじを握る	第二節 手織り	五八四
夜業・朝起	へそくり	一 手紡り	五八四
人	おくらぶち・みやこ	1 あさ(大麻)	
食べ物	思うようなら子三	2 もめん(木綿)	
分配		3 きぬ(絹)	
分配		二 手染め	五八七
分配		一 手織り	五八八
分配		二 手織り	五八八
分配		三 手織り	五八八
分配		1 機(はたご)	五八八
分配		2 機織り	五八九
分配		3 手織縞	五九一
分配		4 びろう機	五九二
分配		5 麻機	五九三
分配		6 絹機	五九三
分配		第三節 仕事着	五九四
分配		一 仕事着	五九四

1 着物を主とするもの	
2 上・下の二部制のもの	
二 手から腕の保護	五九五
三 はばき	五九五
四 はき物	五九五
1 ぞうり(草履・ジョウリ)	
2 わらじ(草鞋・ワランジ ワラジ・ワロジ)	
3 たび(足袋)	
4 げた(下駄)	
五 かぶりもの	五九七
1 てぬぐい(手拭・テノゴイ)	
2 笠	
3 ぼおし(帽子)	
六 雨具・雪具	
第四節 ふだん着	六〇〇
一 下着	六〇〇
1 下ばき	
2 じばん(襦袢・ジュバン)	
二 きもの(着物)	六〇〇
三 はおり(羽織)	六〇一
四 おび(帯)	六〇一
五 はかま(袴)	六〇一
六 ねんねこぼんでん(ねんねこ絆纏)	六〇一
七 がいとう(外套)	六〇一
第五節 寝 具	六〇一
一 ふとん(布団)	六〇一

1 フトン(布団)	
2 ねまき(寝巻)	
3 まくら(枕)	
第六節 洗濯・つくろい	六〇二
一 洗濯	六〇二
二 つくろい	六〇三
三 古い布	六〇三
第四章 食生活	六〇五
第一節 常の食	六〇五
一 食べ物	六〇五
1 一人扶持	六〇五
2 飯	六〇五
3 こなけ(粉餠)	六〇七
4 もち(餅)	六〇八
5 豆類	六二〇
6 漬物	六二〇
7 甘味	六一一
8 食油	六一一
9 酒	六一二
第二節 食 事	六一三
一 食 風	六一三
二 弁 当	六一四
第三節 塩・味噌・醤油	六一五
一 塩	六一五
二 味噌	六一六
1 味噌をつくる	六一六

2	味噌を使う	六二八
3	なめ味噌	六一九
4	たまり(溜)・醬油	六二〇
第四節	果樹・山果・虫類・魚鳥獸	六二一
一	果樹	六二一
二	山果	六二二
三	野草・山菜	六二三
四	虫類	六二五
五	魚鳥獸	六二八
1	自分の家で飼っているもの	
2	漁 勞	
3	狩 獵	
第五節	用水	六三三
第五章	住生活	六三五
第一節	屋敷	六三五
一	民家の立地	六三五
二	屋敷構え	六三六
第二節	民家の作り	六三六
一	木造平屋建て	六三六
二	木造二階建て	六三七
第三節	民家の間取り	六三七
一	平入りの民家の間取り	六三七
二	切妻妻入りの民家(破風屋一本棟造り)の間取り	六四二
三	町屋の間取り	六四四
第四節	建築儀礼	六四六
一	地まつり(地鎮祭)	六四六
二	柱建て	六四七
三	棟上げ(上棟式)	六四七
四	屋移り	六四八
第五節	居住習俗	六四八
一	つねの暮し	六四八
二	はれの場合	六五一
三	生産の場としての民家	六五一
四	格納の場としての民家	六五四
第六節	明かり	六五四
第七節	薪炭 暖房	六五七
一	薪	六五七
二	炭	六六〇
三	焚き火	六六一
四	炬 燵	六六二
五	火 鉢	六六二
第八節	土蔵・物置	六六三
一	土蔵	六六三
二	蔵屋など	六六五
第六章	人の一生	六六八
第一節	誕生から成人へ	六六八
第二節	少年 青年 壮年・老年	六七〇
第三節	結 婚	六七四
第四節	葬 儀	六八〇
第七章	年中行事	六八四
第一節	正月行事	六八四

第二節 春の行事	六八八	第九章 民俗芸能	七一八
第三節 夏の行事	六九〇	第一節 民俗芸能	七一八
第四節 盆行事	六九六	一 大田切人形	七一八
第五節 秋の行事	六九八	二 北割元宮神社の獅子練り 悪魔払い お囃子	七一九
第六節 冬の行事	七〇一	三 姫宮神社祭典―大田切のお練りと獅子舞―	七二一
第八章 民間信仰	七〇四	四 中越、諏訪神社の囃子と獅子舞	七二四
第一節 道祖神	七〇四	五 大久保熊野神社のお囃子 獅子舞	七二五
第二節 庚申	七〇八	六 津島神社の祇園祭りの祇園囃子	七二六
一 庚申信仰	七〇八	七 宮田音頭	七二九
二 庚申供養塔	七〇八	第二節 民謡	七三一
三 庚申講	七一一	一 てんや節	七三一
第三節 甲子・二十三日	七一三	二 地搦唄	七三一
一 甲子・大黒天	七一三	三 おけさ	七三一
二 甲子講	七一三	四 伊勢音頭	七三二
三 二十三日	七一四	五 盆踊り唄	七三二
第四節 念仏・馬頭観世音	七一四	六 おんたけやま 伊那節	七三三
一 念仏・寒念仏	七一四	第三節 わらべ唄	七三八
二 念仏講	七一四	一 童ことば	七三八
三 馬頭観世音	七一五	二 遊びの唄	七三九
第五節 恵比寿・大黒・荒神	七一五	第十章 説話	七四五
一 恵比寿 大黒	七一五	第一節 伝説	七四五
二 荒神	七一六	一 駒ヶ嶽の駒	七四五
第六節 祝殿	七一七	二 濃が池	七四七
一 屋敷神としての祝殿	七一七	三 不動滝	七四八
二 同族の神としての祝殿	七二七	四 大市淵 五郎淵	七四九
		五 婦命山の石地藏	七四九

六 梅が里……………	七五〇
七 御座石……………	七五〇
八 獅子岩……………	七五〇
九 竜神の池……………	七五一
一〇 昔旅人山伏塚……………	七五一
一一 カンケン坊……………	七五一
一二 伊那郡と諏訪郡の境の大田切……………	七五一
第二節 昔話……………	七五二
ねずみ	
三人のお小僧さん	
小さな子ども	
山伏	
古屋のもろぞ	
第十一章 方言……………	七五六
第一節 談話語……………	七五六
第二節 音韻とアクセント……………	七五九
一 音韻……………	七五九
二 アクセント……………	七六二
三 宮田村方言の音韻・アクセントの位置……………	七六三
第三節 文法……………	七六四
一 東西両方言の対立と宮田村方言……………	七六四
二 東西方言対立からみた宮田村方言の位置……………	七六九
三 表現……………	七七〇
おわりに……………	七七五

## 卷末付表

1 宮田村地字・地番一覧表……………	七七九
2 宮田村一般会計決算の推移……………	七九九
3 宮田村関係戦没者芳名録……………	八一八
4 歴代村(町)長、議員及び各級委員ならびに郡会、 県(議)会議員一覧表……………	八二二
5 宮田村誌編纂委員会名簿……………	八三二
6 宮田村誌刊行会名簿……………	八三二
7 宮田村誌編纂 刊行委員会事務局……………	八三三
8 宮田村職員定数の変遷……………	八三四
9 年表……………	八三五

## 後記